

平成 2 5 年度事業計画 (案)

自 平成 2 5 年 4 月 1 日

至 平成 2 6 年 3 月 3 1 日

百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議

平成25年度 百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議 事業計画（案）

百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産への早期登録を実現することにより、古墳群の保存継承や歴史と文化を活かしたまちづくりの推進、都市魅力の一層の向上を図るため、府・堺市・羽曳野市・藤井寺市及び関係団体が一体となって、広域的な情報発信や機運の醸成に取り組むとともに、ユネスコ世界遺産センターへ提出する登録推薦書の作成などの手続きを進めていく。

1 推進体制の整備(総合調整)

H25 予算額 5,120 千円

関係地方公共団体からなる推進本部会議において、世界文化遺産登録に向けた方針や事業執行について協議・決定するとともに、有識者会議や民間会議を運営する。また、世界文化遺産登録後のまちづくりを見据えたビジョンを策定する。

(1) 推進本部会議等の運営

H25 予算額 2,840 千円

① 推進本部会議・幹事会・部会及び事務局の運営

推進本部会議の決算及び予算、事業計画を審議・決定するため、推進本部会議及び幹事会を開催する。また、学術検討・条件整備部会と魅力創出・情報発信部会を開催するとともに、効率的かつ効果的な事務局運営を行う。

② 有識者会議の運営

考古学・古代史、景観等の専門家による有識者会議を開催し、百舌鳥・古市古墳群の登録推薦書(案)や包括的保存管理計画(案)の作成に向けて、課題を整理・検討する。

③ 民間会議の運営

商工会、観光団体、交通事業者、有識者からなる民間会議を開催し、登録後を見据えた地域活性化について検討するとともに、構成団体との連携による情報発信・魅力創出事業を展開する。

(2) (仮称)百舌鳥・古市古墳群を活用した地域活性化ビジョンの策定

H25 予算額 2,280 千円

百舌鳥・古市古墳群を活かした地域活性化に向け、行政や地元住民、民間事業者等が取り組む目標や方向性を共有し、各々が主体的に取り組むことをめざし、登録後を見据えた資産の保存管理やまちづくり、にぎわい創出などについて、民間等も含めて検討を進め、そのビジョンを策定する。

2 魅力創出・情報発信

H25 予算額 8,166 千円

世界文化遺産登録の実現には、地元はもちろん国民レベルでの理解と応援が重要であることから、百舌鳥・古市古墳群に関する認知度の向上や登録機運の醸成に向けて、民間等とも連携した国内外への情報発信の取組みを行う。

(1) 国際シンポジウムの開催(国際専門家会議と同時開催予定)

H25 予算額 1,878 千円

百舌鳥・古市古墳群の価値と保存・継承の重要性について、地元住民や府民、国民に理解を深めていただき、保全等に関して具体的な活動を行ってもらえるよう、国内外の専門家による講演や議論を行うシンポジウムを開催する。

(2) 推進本部会議ホームページの運営と多言語版の構築

H25 予算額 2,259 千円

登録に向けた統一的なメッセージや、資産や地域に関する魅力的な情報を全国に発信することで、幅広い層への認知度と興味の上昇と機運醸成を図るため、昨年度構築した推進本部会議ホームページを運営・更新

する。また、国外への情報発信を充実するため、英語版のホームページを構築・運用する。

(3) 情報発信プロモーションの展開

H25 予算額 4,029 千円

これまでの地元や府域を対象とした情報発信から、関西圏域や全国へとより広範囲での情報発信効果を出すため、民間等と連携して、様々なツールを活用しながらターゲットに沿ったプロモーションを展開する。

① 各種情報発信ツールの作成及び活用

ウォーキング・マップやポスターなどの既存の情報発信ツールを増刷し、交通各社、商業施設、観光事業者、広報・報道関係者等の協力を得ながら、様々な場所やイベント等で配布・配架を行う。

② 民間等とのタイアップ広報

百舌鳥・古市古墳群に興味がない人や訪れたことのない人も含め、世代・性別や趣味など多様なターゲットに沿った効果的な広報と事業を民間とのタイアップで実施する。

③ 各種イベント等を活用した情報発信

大規模集客イベント等を活用して、百舌鳥・古市古墳群の価値や魅力を伝えるための PR を行う。

④ 首都圏等におけるプロモーション活動

関西圏域、首都圏の広報・報道関係者等に対して、百舌鳥・古市古墳群の魅力やその世界文化遺産登録の取組みについてプレゼンテーションするなど、積極的なプロモーション活動を展開する。

3 学術検討・条件整備

H25 予算額 49,790 千円

世界文化遺産登録の実現には、国からユネスコに提出する推薦書(案)及び包括的保存管理計画(案)の作成が不可欠であることから、推薦書(案)等を作成すると共に、推薦に必要な事業を行う。

(1) 推薦書(案)及び包括的保存管理計画(案)の作成

H25 予算額 44,213 千円

26年2月までにユネスコに推薦書を提出できるよう、24年度に引き続き25年度も推薦書の作成(案)を行う。25年度の国への原案提出、26年2月には推薦書を国からユネスコ世界遺産委員会に提出するために、顕著な普遍的価値等の精査を進め、包括的な保存管理計画の策定を行う。

(2) 国際専門家会議の開催(国際シンポジウムと同時開催予定)

H25 予算額 4,272 千円

百舌鳥・古市古墳群の顕著な普遍的価値や資産の保護・管理等について、国際的な視野から国内外の世界遺産・考古学等の専門家による意見交換を実施し、その内容を推薦書(案)及び資産の包括的保存管理計画の作成に活かす。

(3) ユネスコ世界遺産委員会への参加

H25 予算額 363 千円

6月頃にカンボジアのプノンペンで開催される「第37回ユネスコ世界遺産委員会」に参加し、世界遺産推薦に関する最新の審議内容や課題を情報収集するとともに、国際ICOMOS委員等海外専門家へのプロモーションや意見交換を行う。さらに、日本から推薦している「富士山」と「鎌倉」の審議内容についても傍聴し、推薦資産への委員各国の対応を把握し、今後の百舌鳥・古市古墳群の推薦に活かす。

(4) 日本イコモス国内委員との意見交換(イコモス現地調査同行を含む) H25 予算額 552 千円

イコモス国内委員と、顕著な普遍的価値の証明や包括的保存管理計画について意見交換を行い、推薦書作成に活かす。

25年度は、24年度に政府がユネスコ世界遺産センターに推薦書を提出した「富岡製糸場と絹産業関連遺産群」について、イコモス海外委員による調査が行われることから、その調査に同行し、調査内容を考察し、推薦書(案)の作成や資産及び包括的保存管理計画の説明に反映させる。

(5) 文化庁・関係省庁との協議調整

H25 予算額 390 千円

推薦書及び包括的保存管理計画の作成に資するため、文化庁・関係省庁と協議を行う。